

令和7年度第1回倉敷市図書館協議会議事録（要旨）

開催日時 令和7年8月28日（木）10時00分～11時30分

開催場所 倉敷市立中央図書館 3階研修室

報告事項 （1）令和6年度事業実績および令和7年度事業計画について
（2）倉敷市庁舎等再編整備事業（市民交流ゾーン整備）および水島地区公共施設再編整備事業の進捗状況について

出席者 委員： 赤澤委員、川原委員、佐藤委員、津田委員、沼委員、橋本委員、
三宅委員、森田委員、森脇委員（9名）（50音順）

事務局： 仁科教育長、永野生涯学習部長、唐渡中央図書館長、香西中央図書館長補佐、姫井中央図書館主幹、森中央図書館主幹、門脇水島図書館長、多田児島図書館長、児玉玉島図書館長、山賀船穂図書館長、原田真備図書館長、田中中央図書館図書館移転準備室主任、丸谷中央図書館主任、畑中央図書館主任（14名）

欠席者 岩久保委員

傍聴者 1人

議事録（要旨）

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 委員委嘱状交付
- 4 委員紹介
- 5 委員長・副委員長選出
- 6 報告事項

（1）令和6年度事業実績および令和7年度事業計画について

〈事務局〉 図書館の予算・決算について御説明します。「倉敷の図書館」の7ページを御覧ください。左から「令和5年度決算額」「令和6年度決算見込額」、そして一番右に「令和7年度予算額」を掲載しています。「図書館資料費」

は本の購入などに係る予算です。令和7年度の「図書館資料費」予算額は、8千343万6千円で、これは令和6年度予算額と同額です。内訳は、図書購入費、DVDを購入する視聴覚購入費、雑誌や新聞等を購入するための消耗品費です。雑誌・新聞等費が、令和6年度決算見込額に比べ、若干増加しております。これは、新聞・雑誌代の値上がりによるものです。

〈中央図書館〉 続きまして、「令和6年度事業実績および令和7年度事業計画」について、中央図書館から順に報告します。それぞれの取り組みにつきましては、参考に写真も御覧に入りたいと思いますので、前方スクリーンも参考になさってください。

まず、図書館の取り組みの中の「特集展示」についてお話させていただきます。図書館では、毎月様々な特集を企画して、利用者の方に本を紹介するコーナーを設けております。中央図書館では、去年は大小取り混ぜて88テーマの展示をいたしました。ここからしばらく、展示コーナーの様子を御覧ください。こちらのスライドは、「没後50年いわさきちひろ」の特集です。こちらのスライドは10月の様子です。10月7日ミステリー記念日にちなみミステリー特集をしております。こちらのスライドは紅葉シーズンの11月の展示です。カバーの色が赤、黄色の本を集めて、「紅葉する秋山」をイメージしたディスプレイを行った様子です。本の内容・分類問わず、カバーの色だけで集めましたので、様々なジャンルの本が並び、目にも楽しい遊び心のある展示になり、足を止め、手に取ってくださった方も多くおられました。こちらのスライドは12月の展示の様子です。本を積み上げて作る「ブックツリー」に初挑戦したものです。こちらのスライドは、毎年新成人に向けて「二十歳に贈る本」と称し司書が選んだ本のリストを、成人式のパンフレットや図書館のホームページで掲載しておりますが、館内でも1月に展示し、新成人に薦めたいブックリストも用意いたしました。右はベストリーダー展。これは、市内図書館で貸出し回数の多い本の紹介をした展示です。

倉敷市独自のランキングといえるものですが、一覧のリストを作成し、お配りしたところ、大変好評でした。

このような月替わり企画は、年間計画を立て、担当職員がコーナーの飾りや表示などを作成し、毎月の館内整理日に総入れ替え作業を行っています。

また、市役所の担当課や民間団体とも連携した展示を実施しています。主なものとして、市の総合療育相談センター「ゆめばる」からの依頼で自閉症や発達障がいに関する展示、生活安全課との連携で、安全・安心まちづくり旬間や犯罪被害者週間の展示などを行っています。

スライドの右は、保健所健康づくり課と連携した乳がんに関する展示の様子です。左は健康長寿課地域包括ケア推進室と連携しました認知症月間の展示で、今年度も実施いたします。こちらのスライドは、戦後80年の今年、巡回展として本市の総務課が実施した「戦災のきろく展」の様子です。千人針の衣類や、戦地から家族にあてた兵士のハガキなど貴重な展示物の数々とともに、図書館が所蔵している水島空襲などに関する郷土資料もあわせて展示し、多くの来館者に関心をもって御覧いただきました。「折り鶴を折る」コーナーでは、夏休み中の親子連れの方など多くの方が参加され、10日間の設置でしたが、折り鶴を受付ける箱は、いっぱいになりました。

昨年度から倉敷市で実施を始めた「一斉地震対応訓練」では、市内全館が参加施設として登録し、当日は来館者にも参加に御協力いただきました。その他、防災に関する取り組みとしまして、安全・安心な暮らし、防災に役立てていただけるよう、館内に浸水や洪水などのハザードマップを従来掲示しております。先日のカムチャツカ地震発生後には、本市が冊子形態で発行している「津波に関するハザードマップ」をもとに地図を作成し、新たに掲示を追加したところです。

来館者に、より分かりやすく「図書館からのお知らせ」に気づいていただけるよう、カウンターコーナーにディスプレイを設置し、図書館か

らのお知らせ表示を始めました。いわゆるデジタルサイネージを取り入れたものです。看板やポスターよりも、目を引きやすく、またタイムリーな情報発信が可能なツールとして活用していく予定です。

それから行政との連携企画ですが、今年度は健康長寿課地域包括ケア推進室と連携して、エンディングノートを取り上げた講座を11月に開催予定です。

続きまして、令和6年度中央図書館こどもしつの主な行事について、御報告いたします。まずは、「まるごと馬場のぼる展」関連行事についてです。7月26日から9月1日まで、倉敷市立美術館で「まるごと馬場のぼる展 描いたつくった楽しんだニャゴ！」が開催されました。この会期中に、子ども向けの関連行事をいくつか実施しました。最初は、馬場のぼる作品から出題する「子どもの本クイズ」です。参加者は412人でした。次に、ワークショップ「ミニ屏風！描いてつくって楽しむぞニャゴ！」を開催し、岡山県立大学の関崎哲教授を講師にお迎えしました。低学年の子どもたちはスタンプで、高学年はリトグラフで刷った紙を屏風板に貼り付け、それぞれ「ミニねこ屏風」を完成させました。参加者は18人でした。さらに、会期中美術館において馬場のぼる作品のおはなし会を行い、3日間で合計171人の方に御参加いただきました。

次に、「分類記号が立候補！～誰に投票する？」についてです。この企画は、「子どもたちはどのジャンルの本が好きなのか」という疑問から生まれました。対象は、3歳から17歳までの子どもたちとし、図書館の分類記号0類から9類を立候補者に見立て、模擬選挙の形式で投票をしてもらいました。より本格的な体験とするために、市選挙管理委員会事務局から、掲示板や投票箱をお借りしました。そして、告示期間を設けたうえで選挙公報を配布、受付では、利用者カードを提示してもらい「一人一票」を守る形で行いました。その結果、投票総数は102票となり、一番人気だったのは「9類 文学」でした。反対に、一番少なかったのは、それぞれ1票ずつの「0類 総記」と「1類 哲学」でした。なお、得票

数の少なかった分類記号については、後日特集展示を行い、子どもたちにそのジャンルの魅力を伝える取り組みにつなげました。この取り組みは山陽新聞社にも取り上げていただきました。

続いて、11月9日にはモンゴル出身の絵本作家イチンノロブ・ガンバートルさんとバーサンスレン・ボロルマーさん御夫妻をお迎えし、「絵本で旅するおはなし会～モンゴル」を開催いたしました。幼少期から国際交流や多言語に触れてほしいという思いから実現したものです。モンゴルのあいさつやじゃんけんに始まり、御夫妻の著作である紙芝居や、モンゴル語での絵本の読み聞かせを通して、モンゴルの暮らしや文化に親しむ機会となりました。36人の方に御参加いただきました。午後からは市立美術館に会場を移し、読み聞かせボランティアを対象に、絵本が生まれた背景について講演していただきました。そして、同日から26日までの間、こどもしつで御夫妻の原画を展示し、多くの方に楽しんでいただきました。

続いて、図書館・移動図書館を広く知っていただくため、移動図書館車を通常の巡回以外の様々な行事等で活用いたしました。

まず、「まるごと馬場のぼる展」会期中の4日間、本展覧会のPRも兼ねて、移動図書館車「ファミリー号」を市立美術館の正面玄関に展示しました。車内には「11ぴきのねこ」のぬいぐるみを飾り付け、多くの方に写真を撮っていただきました。また、8月17日の「ライフパークの集い」、9月14日の「マービーふれあいフェスティバル」、11月2日の「読書週間おはなしフェスティバル」、11月10日の「くらしき防災フェア」に、移動図書館車「マビツ子笑顔図書館号」を運行いたしました。さらに、12月28日の市立図書館オンラインシステム停止の際には、市内各図書館に、「ファミリー号」「てまり号」「マビツ子笑顔図書館号」の3台を巡回させました。加えて、本年4月19日には「移動図書館車大集合！」と題し、所有する3台の移動図書館車を展示し、貸出しするイベントも行いました。

最後に、令和元年6月に施行されました「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」、いわゆる「読書バリアフリー法」を受け、市内の図書館に「読書バリアフリーコーナー」を設置いたしました。また、この法律が掲げる「誰もが読書を楽しめる社会」の実現に向けて、公益財団法人 文字・活字文化推進機構より「読書バリアフリー体験セット」をお借りし、中央図書館に期間限定の体験コーナーを設けました。点字図書や大活字本のほか、「拡大読書器」や読書に集中しやすくなる「リーディングトラッカー」など、利用者が自分に合った読書の形を選べる資料や補助具を実際に体験していただきました。さらに、「くらしき子ども司書」を対象に、点字のしくみや書き方を学ぶ講座を開きました。参加した17人の子どもたちは、自らの名刺を点字で記す体験を行い、点字への理解を深めました。講師は、点字図書の作成や寄贈に御尽力いただいている「ともしび点訳グループ」の皆様にお願ひしました。

続きまして、令和7年度事業計画です。本年10月17日から12月21日まで、倉敷市立美術館で「やべみつのりと矢部太郎 ～『ぼくのお父さん』のふるさと・倉敷」が開催されます。やべみつのりさんは、倉敷市連島出身の紙芝居作家です。息子の矢部太郎さんは、昨年大河ドラマ『光る君へ』での音丸役や著書『ぼくのお父さん』で知られる、マルチに活躍する芸人です。本展と紙芝居の魅力を伝えるため、会期中はもちろん会期前からも、みつのりさんと太郎さんの親子トークやおはなし会など様々なイベントが予定されています。図書館の取り組みとしては、会期中に3回会場に出向き、展覧会を御覧になったお客様を対象に、やべみつのりさんの紙芝居を中心としたおはなし会を実施する予定です。また中央図書館では、くらしき子ども司書を対象にオリジナル紙芝居制作のワークショップを11月に開催する予定です。

〈水島図書館〉 水島図書館の令和6年度事業実績の報告をさせていただきます。水島図書館では、10月1日に伊勢屋・おもちゃコーディネーターの角谷純子氏を講師に子どもの成長に合わせたおもちゃの与え方について学ぶ講演

会「おもちゃであ・そ・ぼ」を行いました。講演前には、おもちゃをテーマにした絵本の読み聞かせを行い、講演後には親子で講師が持参された木のおもちゃで遊びました。1歳から3歳までのお子さん7人と保護者7人の合計14人が参加され、同世代のお子さんたちとその保護者が一緒に遊び、交流を深めていました。

また、3月16日にくらしき作陽大学子ども教育学部附属児童文化部「ぱれっと」による手遊び、大型絵本、人形劇を大人31人、子ども30人合計61人が楽しみました。キーボードやギターの生演奏で始まり、手遊びでは演者と参加者が楽しく触れ合う場面もありました。音楽や照明を使用し、子どもたちを夢中にさせる工夫があちこちで見受けられた会でした。終了後には「楽しかった」「またやってね」という声をたくさんいただき、関連本を何冊も借りていく参加者もおられ、大変盛況でした。

続きまして、令和7年度事業計画です。今年度は、水島図書館が現在の建物になり40年という記念の年です。開館40周年記念行事として5月7日から25日まで「水島図書館クイズ」、5月10日には「水島図書館40歳のお誕生日会」を行いました。「水島図書館40歳のお誕生日会」では、40周年記念しおりを先着30人に配布し、その後紙芝居や手遊び、誕生日関連の絵本の読み聞かせ、おりがみなどを行い、参加者と楽しみながら、水島図書館の誕生日を祝いました。参加者は紙芝居48人、絵本の読み聞かせ20人、おりがみ6人です。

また、5月7日から9月25日まで「水島の思い出とそれにまつわる逸話」と「思い出に残る本」を募集しております。御応募いただいた作品は、9月27日から10月30日まで水島図書館で展示予定です。

6月21日には、倉敷市埋蔵文化財センター職員を講師に郷土講座「水島の古代史」を開催しました。20人が参加され、講師の話に興味深く聞き入られていました。

その他、読み聞かせやこどもの本クイズ、シニア向け紙芝居の会、本

の福袋、手作り講座など様々な年代の方に興味を持っていただけるような行事を開催していきます。

〈児島図書館〉 児島図書館の令和6年度事業実績の報告をさせていただきます。児島図書館では、地域の小学校との連携企画として児童が作成した「おすすめ本のPOP」の展示を実施いたしました。「おすすめ本のPOP」とは、子どもたちが読んだ本の魅力や内容を文字や絵を工夫して表現したメッセージカードのことです。この企画は、小学校の国語の教科書でPOPづくりが取り上げられていることを図書館側が知り、「子どもたちが作った力作をぜひ図書館でも紹介したい」という思いからスタートしました。日頃から当館を御利用いただいている学校司書の方に御相談し、緑丘小学校と赤崎小学校の御協力を得て、児童の皆様が作ったPOPをお借りできることになりました。借用した個性豊かな「おすすめ本のPOP」は、図書館のこどもしつでパネルに掲示し、紹介された本と併せて展示しました。児童それぞれの視点や感性が光る独特のデザインは、来館者の大きな注目を集め、同世代の子どもたちのおすすめ本ということもあり、展示された本はすぐに借りられる傾向が見られました。この取り組みは大変好評で、今年度も既に赤崎小学校からのPOPに加え、味野幼稚園から絵本に関連した製作物の借用も決定しており、今後も学校園との連携展示を継続してまいります。

また、出前講座として地域の学校園等に出向き、絵本の読み聞かせを行いました。各園への働きかけの結果、令和5年度の年間26回から、令和6年度は年間42回へと、大幅に実施回数を伸ばすことができました。この出前講座は、友達と一緒に読み聞かせを体験することで子どもたちの読書への関心を高め、家庭から図書館への来館が難しいお子さんにも絵本に触れる機会を提供できています。

続きまして、令和7年度事業計画です。毎年開催している郷土講座について、今年度は10月に「民話の世界へトリップ」を開催いたします。児島図書館からほど近い「児島民話通り」を、地元のガイドと共に散策

し、地域の歴史や文化を実際に体感していただく企画です。郷土の魅力を再発見すると同時に、図書館に親しみを持ってもらう機会としたいと考えております。

また、学生の学習環境サポートとして、会議室の一部を「グループ学習席」として提供いたします。現在、試行的に設置をしており、主に中学生や高校生が利用されています。利用状況を分析し、学生のニーズに合わせたより良い学習環境を提供できるよう検討してまいります。

その他、オリジナルの脳トレクイズを配布したり、ボランティアの皆様と協働でおはなし会を開催したりして、幅広い年代の皆様のニーズに応える事業を企画・実施することで、地域にとってかけがえのない存在となれるよう努めてまいります。

〈玉島図書館〉 玉島図書館の令和6年度事業実績の報告をさせていただきます。玉島図書館では、8月24日に「タネのひみつ！たね明かそう！」と題して、岡山県立玉島高等学校サイエンス部たまっころボの皆様を講師に迎え、小学生以上を対象に行事を実施しました。紙とテープを使って4種類のタネの模型を作成し、高い位置から落としたらそれぞれがどのように飛んでいくのかを観察しました。タネの形によっていろいろな動きをすることが分かり、科学に親しみを持ってもらう機会になったのではないかと思います。

3月11日から23日まで、山陽新幹線全線開通50周年を記念して「鉄道クイズ」を行いました。家族で相談して答えてもらおうと、こどもしつのテーブルに回答を探すための本を置いて挑戦してもらいました。同時にガラスケースと壁面では「春のおでかけ伯備線の旅」と題して、本の展示とともに職員が撮影した新型やくもやサンライズ出雲の写真を飾ったところ、多くの方に興味を持っていただき、クイズには119人が参加されました。

続きまして令和7年度事業計画です。すでに実施した催しとしましては、6月15日に「てるてるおはなし会」と題して読み聞かせボランテ

ィアの方と図書館司書が協働で屋外でのおはなし会を行いました。玄関前の大きな楠の木の下のベンチを利用して、広々とした空の下、いつもと違う場所でのおはなしを楽しんでもらい、大変盛況でした。

次に、先ほど児島図書館でも説明がありましたが、夏休みの子どもたちの学習環境をサポートするため、グループ学習席を提供する試みを行いました。7月19日から8月24日の間、通常個人席のみとしている研修室を2つに区切り、半分をグループ学習用の部屋としました。小学生の親子連れから高校生までの方に主に利用していただきました。利用状況を分析し、今後の利用について検討してまいります。

今年度は他に、11月に薬についての理解を深めていただければと、薬剤師の方を講師に「ちょっと気になる薬の話」という講座を、1月に整理収納アドバイザーの方を講師に「安心で心地よい家にする5つの片付け習慣～毎日の片付けがいざというとき家族を守る」という講座を計画しています。行事に合わせて、関連する図書館資料を紹介・貸出しを行うなど、図書館を有意義に役立てていただけるよう努めてまいります。

〈船穂図書館〉 船穂図書館の令和6年度事業実績の報告をさせていただきます。船穂図書館では、水島工業高等学校の図書委員と協働事業を行いました。7月10日には7人が参加し、図書館周辺の清掃活動や、書架から予約資料を取り出す作業、おすすめの本のPOPを作成してもらいました。作成したPOPは、8月27日まで本とともに展示し、展示期間中は、多くの利用者に手に取ってもらい、POPを通じて本の魅力を伝えることができました。

また、12月21日には、おはなし会と工作の行事を開催しました。参加した生徒は5人で、そのうち一人が、始まりのあいさつから工作の時間まで、全体の進行役を務めました。参加した子どもたちと積極的に会話をしながら進行し、とても和やかで楽しい雰囲気となりました。工作では、イ草を使ってミサンガを作りました。イ草は複数の色があり、好きな色を選べたため、小さなお子さんにも好評でした。参加は17人

でした。

続きまして、令和7年度事業計画です。船穂図書館は、今年、開館25周年を迎えました。これを記念して、4月1日から8月31日まで「おめでとうの木にメッセージを書こう」という行事を行っています。利用者の方から多くの温かいメッセージが寄せられており、職員の励みにもなっています。7月12日には、災害時にも役立つペットボトルを使ったランタン作りのワークショップを行い、7人の方に御参加いただきました。

7月24日には「パネルシアター♪やっほい！」さんをお迎えして、おはなし会を開催しました。24人が参加し、パネルシアターを使ったおはなしや歌で、笑顔あふれる楽しい時間を過ごしました。また、7月と8月に館内のガラスケースで記念展を行い、開館当時を紹介した広報紙などを展示しています。10月には、同じく開館25周年を迎えた真備図書館と合同で謎解きスタンプラリーを企画しています。両館を巡ることで、地域の皆様に図書館の魅力をより感じていただければと思います。

〈真備図書館〉 真備図書館の令和6年度事業実績の報告をさせていただきます。真備地区は平成30年7月に西日本豪雨災害で被災していることから、7月に防災パネル展示を行いました。防災科学技術研究所自然災害情報室が制作した「西日本豪雨の記録」や「集中豪雨のしくみ」など災害に関する防災パネルを展示しました。それに加え、ぬいぐるみ型の防災リュック、ペットボトルなどを使って液状化のしくみや振動の伝わるしくみが学べる実験装置も展示し、多くの来館者に見ていただきました。

11月に「きみの『推し本』バトル」と題し、利用者からおすすめ本のPOPを募集し、展示・投票によるチャンプ本を決める行事を行いました。おすすめポイントやイラストを書いたPOP13点の応募があり、投票数88件を集計し、チャンプ本を決定しました。日頃読まない分野の本を手にとっていただく機会になったのではないかと思います。

真備図書館再開館4周年フェスティバルとして、「糸あやつり人形劇団『つきみ草』がやってくる！」を行いました。瀬戸内市で活動する糸あやつり人形劇団「つきみ草」による腹話術と人形劇で70人の参加がありました。軽妙な腹話術で和んだ後、「てぶくろを買いに」の糸あやつり人形劇を上演してくださり、物語の世界を楽しみました。終演後は糸あやつり人形を実際に体験させてくださり、参加者はとても興味深そうに人形の操作を体験していました。

続きまして、令和7年度事業計画です。7月には昨年と同様に防災パネル展示を行いました。今年度は加えて、7月19日に防災講演会「地震に備える防災を学ぼう」を日本赤十字社岡山支部の指導員を講師としてお迎えし、災害への備えの話を伺いました。また、自宅の平面図を書いて改善箇所や注意箇所の検討をする家具安全対策ゲームも行いました。28人の参加があり、みなさん熱心に取り組まれていました。10月18日にマービーふれあいセンター、真備児童館との合同企画「マービーふれあいフェスティバル」を予定しております。近隣3施設の相互利用の促進を図る目的で行い、図書館では、「移動図書館『マビッ子笑顔図書館号』がやってくる!」、「図書館クイズ」、倉敷市子ども文庫交流会による「つながる!つながろ!おはなし会」を行う予定です。一日様々なイベントを行い、参加者が楽しめるよう企画しております。

〈委員長〉 事務局の皆様ありがとうございました。それでは、「予算決算」及び「令和6年度事業実績および令和7年度事業計画」について、委員の皆様からあらかじめいただいております質問や御意見について回答していただきたいと思います。

〈事務局〉 ■■委員さんから令和7年度の行事について、真備図書館が11月に開催する「みんなの社会科見学」は、図書館外での活動もあるのですかと御質問いただきました。

市立図書館では、郷土講座の中で、実際現地に赴き目で見て感じる体験をしていただく行事もございます。今年度は真備図書館で11月に「み

んなの社会科見学」として、竹を使用して家具やインテリア雑貨を製造する株式会社「TEORI」での工場見学を予定しております。このほかに、児島図書館で10月に、観光ガイド協会の方と児島民話通りを散策する行事を開催予定です。

続きまして、■■委員さんから令和7年度重点目標について、市民が安心安全に利用でき、満足していただけるような施設の運用管理の実施とありますが、どのような内容・頻度で実施・対応していますか、という御質問をいただきました。

市立図書館では、毎年行う法定の避難訓練に加え、9月26日の倉敷市一斉地震対応訓練へ全館参加することとしております。これにより、有事の際に備え、避難経路や避難誘導の際の注意点等を全職員で確認し、適切な対応に努めております。また館内には、各地区の浸水や洪水等のハザードマップに加え、津波ハザードマップも掲示し、来館者に御覧いただけるようにしております。この他にも、利用者目線での案内表示や、職員全員が本市消防局の普通救命講習を受講し、心肺蘇生法やAEDの使い方も習得しております。

続きまして、令和7年度行事・事業の企画について、行政との連携企画・展示は良い事業だと思いますがどちらからの提案・企画ですか、と御質問をいただきました。市立図書館の行政との連携につきましては、特定の部署や提案元に限定されるものではなく、様々な連携の形がありますので、主なものを御紹介いたします。

11月に予定している人生会議の出前講座は、図書館から健康長寿課地域包括ケア推進室へ依頼したものです。また、市立美術館の特別展との関連イベントは、双方で協議を重ねながら企画しました。

既に全館で開催した「戦災のきろく展」は、総務課からの提案によるものです。戦後80年を迎えた今年、より多くの市民の方に見てもらいたいという提案を受け、各館での巡回展示が実現しました。

続きまして、■■委員さんから、令和7年度予算視聴覚資料費（備品

購入)の予算額がかなり減っていますが、理由について御教示ください、という御質問をいただいております。昨今、音楽や映画などのコンテンツがデジタル配信されるようになりました。コロナ禍以降、このようなストリーミングサービスやダウンロードによる視聴が一般的になってきており、図書館でのCD、DVDの利用も減少しております。また、名作と言われている作品はすでに所蔵しているものが多いこともあり、視聴覚資料の予算は減少しております。その分、図書購入費や雑誌費等に充てているところです。

続きまして■■委員さんから、7月30日のカムチャツカ地震による津波注意報が発表された時の対応について御質問をいただきました。倉敷市立図書館では、気象情報発令時の図書館行事などの取り扱いについて定めております。図書館のホームページにも公開をしております。また、レベル4の避難指示では、「閲覧席の貸出しを中止、新聞雑誌コーナーを閉鎖」することとし、館内に掲示しております。

今回の対応としましては、館内放送を実施するとともに、立地する地域に応じた「閲覧席の貸出し中止、新聞雑誌コーナーの閉鎖」を行いました。

続きまして、■■委員からの御質問にお答えさせていただきます。図書館要覧の入館者数について、御指摘いただきました通り、令和5年度から6年度にかけて、一部の図書館では来館者数が減少しております。今後、継続して減少しないよう、市民のニーズをとらえたイベントの開催、ホームページやSNSでの情報発信に努めてまいりたいと思っております。なお、要因として考えられることの1つとして、インターネットやスマートフォンの普及による情報の取得方法の変化や、コロナ禍でデジタルコンテンツが普及し、読書環境が多様化していることが影響しているものと思われます。

■■委員から、倉敷の図書館23ページ掲載の「全国類似図書館との比較」において、比較する都市をどのように選定したのですか、という

御質問をいただきました。これについては、近隣の中核市の中から人口規模や分館の数などが倉敷市と類似する市を選定し、照会を実施いたしました。結果として関西圏の都市が目立つ形となりましたが、回答をいただいたすべての都市を掲載しております。

■■委員より御質問いただいた、中央図書館が9月に開催する「遊んで学ぼう！防災カードゲーム」について御説明と回答をいたします。防災月間である9月に、小学生を対象に災害について楽しく学んでもらうことを目的に企画しました。内容は「防災学習かるた」と「防災ピクトグラムカード」を使ったゲームを通して防災の意識を高めるものです。

「防災学習かるた」は株式会社スクールユニフォームカンパニーが、学校向け防災教材として開発したもので、かるた取りをして楽しみながら学ぶことができます。「防災ピクトグラムカード」は、内閣府が公開している「避難場所等の図記号の標準化の取組」の図記号データを使用して図書館職員が作成したカードです。同じ絵柄が2枚あることから「神経衰弱」を行います。ゲームの特性を生かし、参加者は楽しみながら重要な防災情報を見て・覚えて・理解することができると考えています。

〈委員長〉 ありがとうございました。事前に提出していただいた質問についての回答を事務局からいただきました。委員の皆様、ただいまの回答に関するお尋ね、また追加で何か関連しての質問がありましたらお願いします。

よろしいでしょうか。今日スライドを見せていただきましたが、質問も多岐に渡っていました。図書館職員の皆様は、いろいろなことを考えながら、より親しみやすい使いやすい図書館になるように工夫されていると思います。大変とは思いますが、引き続き頑張ってくださいと思いますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、委員の皆様から質問とは別に御意見をいただいております。この御意見に関して事務局からお伝えする事項がありましたらお願いします。

〈事務局〉 委員の皆様には大変多くの御意見をいただきありがとうございます。

2点お話をさせていただきます。まず1点目ですが、図書館のホームページで蔵書検索をした際に表示された文言が少し分かりにくいと感じられたという御意見をいただきました。「図書館システムの操作方法について」という資料を御覧ください。1の画面は、倉敷市立図書館ホームページのトップページの画面です。本の所蔵を調べる時は、画面中央付近の「蔵書検索」を御利用ください。こちらをクリックして開くと2の画面となります。この画面右上にあるハテナマークをクリックしていただきますと用語説明を含めた使用方法の画面が表示されます。御意見をいただきました点も含め、御活用いただけるページとなっておりますので、御覧になってみてください。

続きまして、■■委員さんから11月に東京で開催されるデフリンピックに関連した御意見をいただきました。このデフリンピックは、聴覚に障がいのある方のためのオリンピックで、日本での開催は今年が初めてです。前方のポスターを御覧ください。こちらは今後、図書館で実際に展示する予定のポスターです。図書館ではポスターの掲示とともに、障がい福祉課と連携し、市内全館で手話の本の特集展示をする予定です。9月23日が「手話言語国際デー」ですので、展示は9月から行う予定です。手話への関心を高め、理解を深めることにつながると思います。

〈委員長〉 ありがとうございました。委員の皆様、ほかに御意見や御感想がありますでしょうか。

〈■■委員〉 本当にすごいエネルギーとアイデアで活動されていると感心いたしました。全体としては、地域や図書館というそれぞれの足場を生かした多様なイベントで人を呼び込んでいるなと感じました。もう1つは、連携ですね。来館者との連携や様々な団体、それから市役所の市長部局や小学校、高等学校などいろいろな連携があったと思います。

私は図書館に足さえ運んでもらえれば、十分魅力が伝わると思うので、いかにして図書館に足を運んでもらうかだと思っています。先ほど紹介された小学校のPOPなどは友達や親の来館につながり、中学校や高校

の図書館活動も同様に図書館に足を運ぶ機会になると思います。図書館に来ればその魅力に気がつくと思うので、様々な形で様々な層の人たちを引き込む連携や工夫を今後も続けていただけたらなと思いました。

〈委員長〉 ありがとうございました。今、■■委員さんの意見にもありましたように、私も地域の方や団体、関係機関、ボランティアなどいろいろな方と連携をすれば、視点も広がり、活動も広がってより多くの地域の方から図書館に関心を持ってもらえる、利用してもらえることにつながると思います。生みの苦しみというのがあるかと思いますが、今後もいろいろな方と協力し、図書館をより楽しめる場所、皆様が来やすい場所にしていきたいらと思います。

初めての委員さんもいらっしゃると思いますので、この場ですぐ感想を言うのは難しいかと思います。何か問い合わせがあれば、図書館に連絡させていただくことは可能でしょうか。

〈事務局〉 はい、何かございましたら、遠慮なく御連絡ください。

〈委員長〉 委員の皆様もこの協議会に限らず、何か思いついたこと、何か質問したいことがありましたら、職員が気づかないこともあると思いますので、お知らせや提案をしていただけたらと思います。

では続いて報告事項に移ります。報告事項の2番目、倉敷市庁舎等再編整備事業及び水島地区公共施設再編整備事業の進捗状況について、事務局から御報告をお願いいたします。

〈事務局〉 中央図書館と水島図書館の移転事業について御報告いたします。

中央図書館と水島図書館は、施設の老朽化が進んでおり、それぞれ新たな複合施設として整備計画を進めているところでございます。

今回新たに御就任された委員の方もいらっしゃると思いますので、これまでの経緯について御説明したのち、進捗状況について御報告いたします。

中央図書館は、市役所東隣、現在、倉敷市屋内水泳センターがある場所に複合施設棟として建設予定です。複合施設棟のコンセプトや建物のあらましについては、令和6年度2月市長定例記者会見の動画で御確認い

ただきたいと思います。

〈市長会見動画〉

〈事務局〉 基本計画の策定にあたりましては、これまで図書館協議会におきまして、委員の皆様から貴重な御意見をいただいたところでございます。■委員さんには、クライストチャーチの図書館の先進的な取り組みについて、多くの写真を交えて御説明いただきました。協議会委員の皆様からの御意見や、市民アンケート・ワークショップ等で市民の皆様から寄せられた御意見を参考に、基本計画を策定し、実施方針・要求水準書を公表し、事業者の募集・選定を行いました。令和7年3月に事業契約を締結し、現在は事業者と基本設計について協議を進めているところです。今後、基本設計、実施設計、施工と進めてまいりまして、令和11年度中に供用開始予定でございます。なお、整備受託事業者による市民対象のワークショップが9月6日・20日・10月18日の3日間にわたり開催されることとなっております。

続きまして、水島図書館についてでございます。老朽化が進んでおります水島図書館、水島公民館、水島児童館3つの施設を複合化し、「水島市民交流センター」として整備いたします。場所は水島支所の北側、現在の水島児童館・水島公民館の敷地となります。施設は現在の水島児童館のグラウンドに建設予定です。昨年度、書面にて開催させていただきました令和6年度第2回倉敷市図書館協議会におきまして、委員の皆様にお伺いした御意見も踏まえ、令和7年1月に「倉敷市水島地区公共施設再編整備基本計画」を公表いたしました。今後のスケジュールといたしましては、今年度中に事業者の募集・選定を行い、令和8年度より設計・施工に着手し、令和11年7月の供用開始を予定しております。

〈委員長〉 事務局の皆様、御報告ありがとうございました。委員の皆様から何か御質問等がありましたらお願いいたします。

〈■■委員〉 恐らくこれから実施設計に入っていくかと思うのですが、書庫をしっかりと確保できるように頑張ってください。どうしても建設業者、設計

屋さんは、開架図書とか見栄えを気にするのですが、やはり十分なバックヤードがないと大変困ると思いますので、ぜひ図書館でしっかり主張していただければと思います。委員からの意見ということで、ぜひ頑張ってください。

〈委員長〉 ありがとうございました。確かに書庫というのは大きすぎるということはないと思います。いろいろな方に利用していただき、すぐに対応するためには、蔵書数も必要です。そのためにそれを保管する所も必要です。蔵書さえあれば、開架していなくてもすぐ出せるという対応もできると思います。少しでも多くの方に利用していただき、市長の記者会見にありましたように、作って終わりではなくしっかり活用していただけるような工夫を引き続き検討していただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

皆様、お疲れ様でした。限られた時間ではございましたが、皆様の御質問にも答えいただきましたし、意見、感想、また協議会の委員としての提案もありました。ぜひ、事務局にはそういうことを参考にしながら、今後もよい図書館づくり、図書館運営に努めていただけたらと思います。それでは最後に副委員長、一言お願いいたします。

〈副委員長〉 皆様、お疲れ様でした。活発な御意見、御質問があって中身の濃い良なお話ができたとと思います。ありがとうございました。

7 閉会 生涯学習部永野部長あいさつ

以上の議事録を、令和7年8月28日開催の令和7年度第1回倉敷市図書館協議会議事録（要旨）とすることに同意します。

令和7年 10 月 28 日

倉敷市図書館協議会

委員長 川原 伸次



印